

以下のスライドの著作権等について

- 以下のスライドは2019年3月2日土曜日に早稲田大学で開催の日本英語教育学会・日本教育言語学会第49回年次研究集会での発表に使用した一部です。
- スライドの内容は今後随時変更されることがあります。
- すべての無断複製を禁止します。
- 以下のスライドの著作権・使用許諾条件・掲示責任者・連絡先などについては
<http://www.f.waseda.jp/harada/copyright-j.html>をご覧ください。

謝辞：本発表で紹介する研究の実施にあたり、以下の研究助成の支援を得ています。

- **科研費基盤研究(C)・課題番号：16K02946**
研究題目：英語コミュニケーションにおける統語的プライミング
を利用した統語処理の自動化促進
研究代表者：森下美和(神戸学院大学)
- **科研費基盤研究(B)・課題番号：15H03226**
研究題目：日本人英語学習者のインタラクション(相互行為)を
通じた自律的相互学習プロセス解明
研究代表者：原田康也(早稲田大学)
- **早稲田大学特定課題研究助成費(基礎助成)**
課題番号：2018K-024
日本人英語学習者の自律的相互学習におけるインタラクション
データ分析手法の研究
研究代表者：原田康也(早稲田大学)
- **早稲田大学特定課題研究助成費(特定課題B)**
課題番号：2018B-016
氾濫するカタカナ語の言語(英語・日本語)学習に対する影響
の調査と対応策の提案
研究代表者：原田康也(早稲田大学)

2019-03-02 (Sat)

早稲田大学8号館3階会議室

自律的相互学習の記録と分析 からインタラクションの楽しさへ

**日本英語教育学会・日本教育言語学会
第49回年次研究集会：教えない教え方**

原田康也(早稲田大学・法学学術院)

avant-propre

It is like a finger pointing away to the moon. Don't concentrate on the finger or you will miss all that heavenly glory.

**<https://www.youtube.com/watch?v=LH1GFaw09hk>
Finger Pointing to the Moon - Bruce Lee**

おまけ

<https://www.youtube.com/watch?v=OHc1oB-308A>

0:32 / 4:08

長門有希 PV 雪、無音、窓辺にて。 画質改良版

<https://www.youtube.com/watch?v=v9krTo5lgD8>

まっがーれ↓スペクタクル PV

2020/02/29-2020/03/01

- **日本英語教育学会・日本教育言語学会第50回年次研究集会：英語教育の実践と研究の半世紀**
 - 日本英語教育学会 第1回総会 1970/11/27-28
 - よど号ハイジャック事件 1970/3/31
 - 大阪万博=日本万国博覧会1970/3/15-9/13
 - アポロ11号月面踏査 1969/7/21 02:56:15 (UTC)
<https://www.youtube.com/watch?v=oOldMawuDWY>
Frank SINATRA Fly Me To The Moon In Other Words Live 1969
- **「【創立40周年記念特別講演】英語教育研究への科学的アプローチの可能性と実践例」, 日本英語教育学会第40回年次大会, 2010/3/29**
- **日本英語教育学会第41回研究集会 2011/3/29**

英語を勉強しているときの妄想

- 楽をしてよい成績を取りたい。
- 授業をサボって単位を取りたい。
- 苦労なしで英語を話せるようになりたい。
- 一月で TOEIC スコアを 200 点上げたい。

Post-modern approach to English teaching

Teach less, expect more.

but wait. You ain't heard nothing yet.

現代日本の大学英語教育における課題

- 学生の英語力 → 質問する力の喪失
 - 学習到達度の多様性
 - 語彙不足・読解力不足・表現訓練不足 → 文法運用力不足
- 学生の一般的学習能力 → 質問する力の喪失
 - 調べとまとめと発表・批判的受容・創造的思考・知識の統合
 - レポート・文章のまとめ方(引用・出典など含め)
 - 口頭発表・プレゼンテーション(引用・出典など含め)
 - コンピュータ・ネットワーク・検索システム・図書館の利用
- 学生のコミュニケーション力 → 質問する力の喪失
 - 対人関係・無発言行動*
 - 論理的表現力(文書・口頭での説得力)
 - 即時的応答力(時間に制約のある課題)

*岡本能理子,「第四章 ことばの力を育む」,小宮山博仁・立田慶裕編,『人生を変える生涯学習の力』,p. 102,評論社,2004年5月15日.

英語で質問することが日本人英語学習者にとって難しい3つの理由

- 質問を即座に構成するための運用能力の不足
 - 平叙文の疑問文への転換
 - 主語・助動詞の倒置 / 疑問詞の転置 / 疑問詞主語の構文
 - 疑問文のイントネーション
- 社会言語的困難
 - 教室において発言・質問することが社会言語学的に困難な状況に置かれている。
- 知的陶冶
 - 答えることが知的快につながる質問内容を思いつくには高度の知性を必要とするが、、、

無発言行動*

- 大学での教職員の経験
 - 「私語が多くて授業が成り立たない場合がある一方で、**指名されても押し黙ったままで、話す意欲を見せない**。いかにして自分の考えを言わせるかに教師は苦勞する」
 - 「研究室や事務局窓口では、**訪ねてきた理由を問わないと学生は説明を始めないし、答えも単語を並べるだけで文章になっていない**」
- これを裏付けるデータ: 大平浩哉(前早稲田大学)
 - 無発言行動
 - 教師に問われても答えない
 - 発言を促されてもなかなか話そうとしない
 - **いつから**発言しなくなったか(1998 年の調査)
 - 小学校高学年 10% (累積無発言率 10%)
 - 中学校 41% (累積無発言率 51%)
 - 高校 22% (累積無発言率 73%)
 - 大学入学以降 04% (累積無発言率 77%)
- 高校生たちの声: 吉岡泰夫(国立国語研究所)2002年
 - 授業中、**生徒が自ら考えて発言しても、先生の考えに沿うものでなかったら先生は權威を振りかざして封じ込めるので、コミュニケーションが成り立たない**。
 - 先生に使って敬語を使って話せと指導されるのに、先生は生徒に対して「です・ます」さえも使わない。とくに、生徒を注意する場面では敬称さえ使わず呼び捨てであり、生徒に対する敬意が感じられない。先生は自分のことを「先生」という自称詞で言っていることからしても、**子ども扱いされている**ようでいやだ。

*岡本能理子,「第四章 ことばの力を育む」, 小宮山博仁・立田慶裕編,『人生を変える生涯学習の力』, p. 102, 評論社, 2004年5月15日.

英語教育の課題

- コミュニケーション力の涵養をめざす
 - 論理的表現力(文書・口頭での説得力)
 - 即時的応答力(時間に制約のある課題)
- 学生の英語力
 - 多様性
 - 語彙の不足・表現訓練の不足
- 学生のコミュニケーション力
 - 対人関係・無発言行動

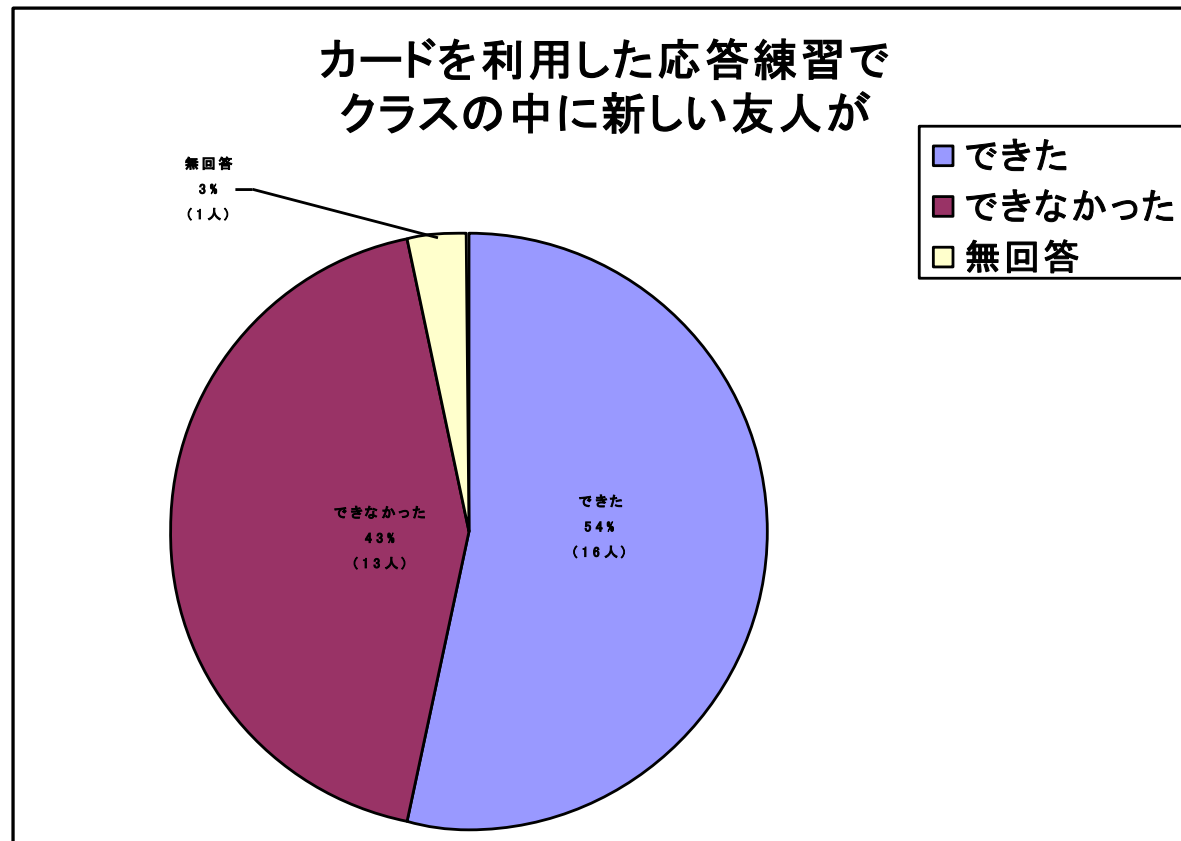
応答練習の概略

- 教員があらかじめ質問を用意する。
 - ひとつのテーマに関連する10の質問
 - エーワンのマルチカードに印刷して配布
 - ひとつのカードにひとつの質問
- 3人の学生が1グループを構成する。
 - 質問者:カードの英文を読み上げる。
 - 回答者:質問に回答する。
 - タイムキーパー:撮影担当
- ひとつの質問が終わると
 - 相互評価用紙に記入
 - 役割を交代
- 応答練習が終わると
 - そのテーマについて300語から400語の文章作成
 - 宿題として完成・次週に相互チェック

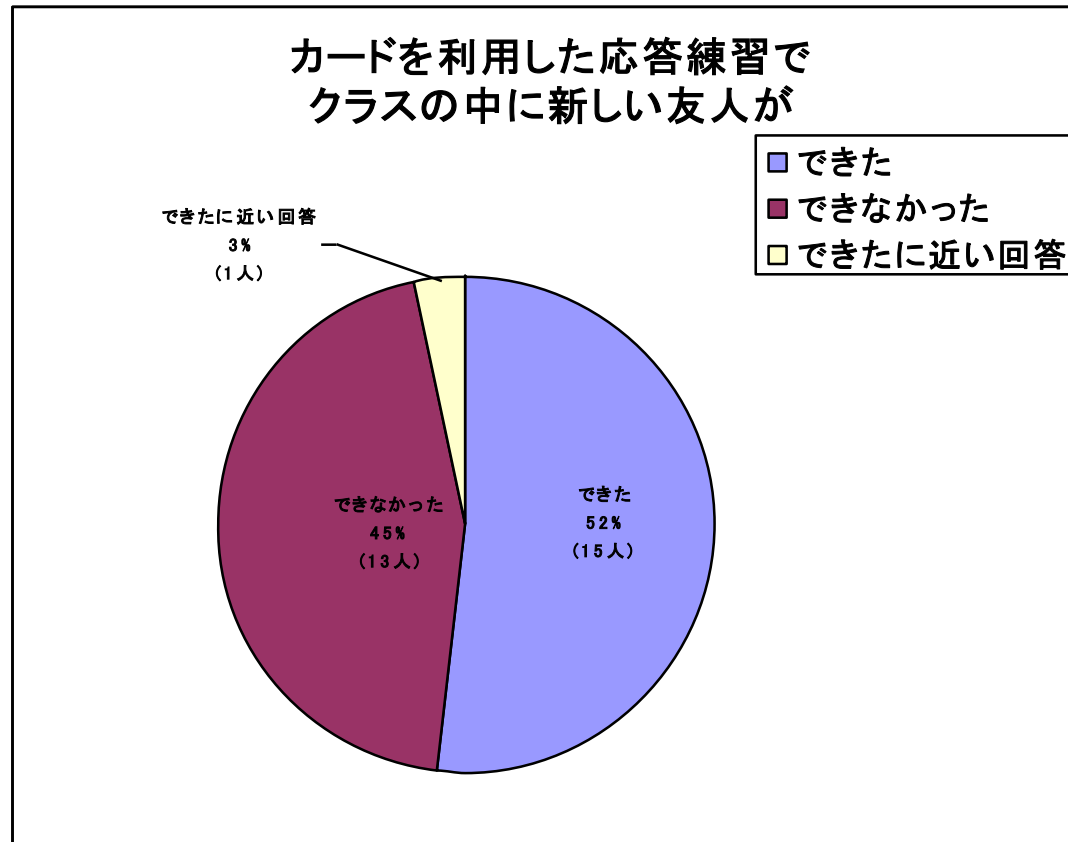
やってみてわかったこと

- 英文音読の重要性を再認識
- 情報落差が自然に成立
 - 回答者はカードを見ることができない
 - 回答者の応答は経験と個人的意見
- 応答制限時間など現実的な対話状況
- 一般的なペア学習より負荷が低い
- 学生のコミュニケーション能力は低い

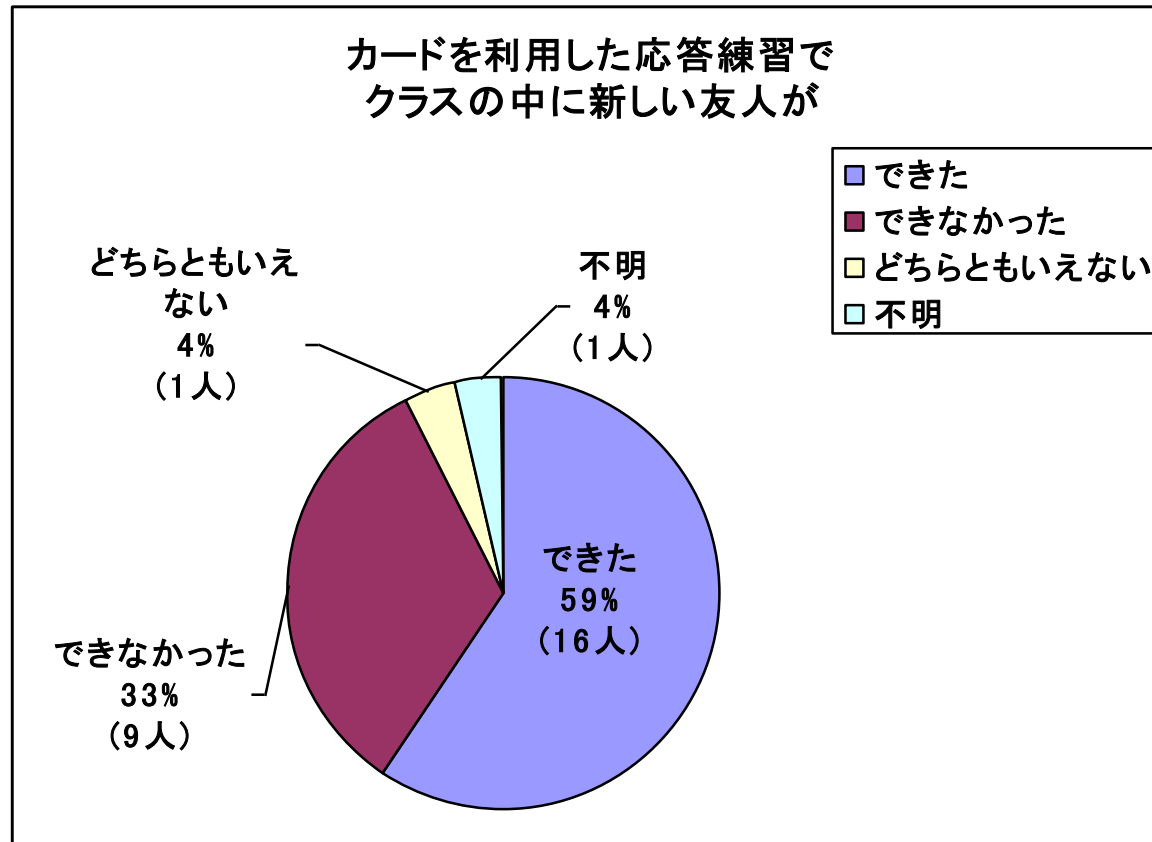
月曜3限法学部1年英語A



月曜4限法学部1年英語A



月曜5限法学部1年英語A



日本学術会議「回答大学教育の分野別質保証の在り方について」社交性の獲得あるいは奥行きのある人間の育成

- 人は長じて、**なぜ学生時代を懐かしむのか**。そこには、講義などの制度的な仕組み以外の大学での生活があるからである。名物教授の立ち居振る舞い、学生食堂の食事、クラブ活動や様々なイベント、多様な人々との出会いや友人との交流、大学周辺の街の雰囲気など、大学という社交空間で経験した生活の「匂い」とでも言うべきものは人の一生を通じて残り続ける。仮にこのような**社交空間としての大学の「匂い」を隠れたカリキュラムと名付けるとすれば**、これこそが人間の成長の糧を提供しているのかもしれない。このような隠れたカリキュラムによる成長が、人間の幅を広げ、**専門以外の事柄について知的に会話することや、全く文化的背景の異なる人間と交流することを楽しめる人間を生み出すのである。**

日本学術会議「回答大学教育の分野別質保証の在り方について」①コミュニケーションとは何か

- 現代にふさわしい「**市民的教養**」を考える上で、**コミュニケーション能力**は重要な要素である。
- 他者との**協働の能力**を向上させることこそがコミュニケーション教育の目的だからである。
- **公共的課題**の発見とその解決においては、自らの価値観や視点とは**異なる他者と出会い**、他者の価値観や視点を理解し、**協働する能力**が求められる。
- 自らの意見を**論理的に構成**し、**交渉**を通じて**合意**を生み出す能力も育成されねばならない。
- 国内、国外を通して、異なる価値観や視点を持つ他者と協働する機会が増大することが予想され、そこでの**コミュニケーション能力の育成は、教養教育の重要な課題**である。

日本学術会議「回答大学教育の分野別質保証の在り方について」③ 国際共通語としての英語教育

- グローバル化に伴い、**英語は**、イギリス人やアメリカ人の母国語というあり方を越えて、世界で最も広い範囲に流布する**国際共通語となっている**。このような国際共通語としての英語は、現在のアメリカ合衆国の政治力、経済力、軍事力の優位を背景にして生まれたものである。特にビジネスや情報のように物事の構造よりも流通・交流が問題になる分野、科学研究とりわけ自然科学のように標準化された手法と道具一度量衡の標準化はその象徴である—に基づく研究活動を通じて世界規模の科学者共同体が成立している分野では、**共通語使用の利便性は高く、その習熟は不可避である**。
- このような観点からすれば、**教育・学習の対象になるのは、英米の言語としての英語ではなく、媒介言語としての英語である**。
- こうした国際共通語としての英語の教育は、従来の外国語教育とは別のカテゴリーに属するものと解するべきである。グローバルな局面で、**文化と言語を異にする他者と協同し交流する能力を育成するために、アカデミック・リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションを核とする「英語によるリテラシー教育」**を構想する必要がある。その際、異文化との接触において自らのあり方と立場を説明し理解してもらうことの重要性を思えば、日本事情・日本文化は学習内容の重要な要素となるはずである。

2016年7月2日(土曜日) 早稲田大学8号館303/304/305会議室

第119回次世代大学教育研究会

発言教室 — 発言を促す仕掛け —

原田 康也

harada@waseda.jp

早稲田大学 法学学術院 教授 / 情報教育研究所 所長
日本英語教育学会前会長

質問を促す仕掛け・質問を促す仕組み

- 応答練習: 3人で1グループ
 - 1年は通年・2年は学期開始直後と終了直前
 - 一人が質問を二回読み上げ、一人が回答する。
 - 1回の授業で10問・年間最大30回の授業
 - 質問の最後は、「根拠または具体例を述べよ」
- 少人数プレゼンテーション: 4人で1グループ
 - 1年秋学期隔週・2年学期開始直後と終了直前
 - 一人が発表し、残り3人は途中で一回以上の質問
- CNN ニュース紹介: 4人で1グループ
 - 1年秋学期隔週
 - 一人が発表し、残り3人は途中で一回以上の質問

2008年11月8日(土曜日) 明治大学駿河台キャンパス12号館6階メディア教室5

情報コミュニケーション学会第4回研究会
テーマ:「学びはデザインできるか？」

学びあいをデザインする
自律的相互学習のための英語授業のデザイン

原田康也
早稲田大学法学学術院教授
情報教育研究所所長

本日の発表の主要なポイント

- **【コミュニケーション】は【場の共有】を前提とする。**
- **【学習デザイン】は【デジタルコンテンツのナビゲーション】だけではない。**
- **【ロールプレー】は【コミュニケーション活動】ではない。**
- **【教室における最大の学習資源】は【(隣の)学生】である。**
- **【教室におけるもっとも重要な研究資源】は【学生の相互自律的活動】である。**

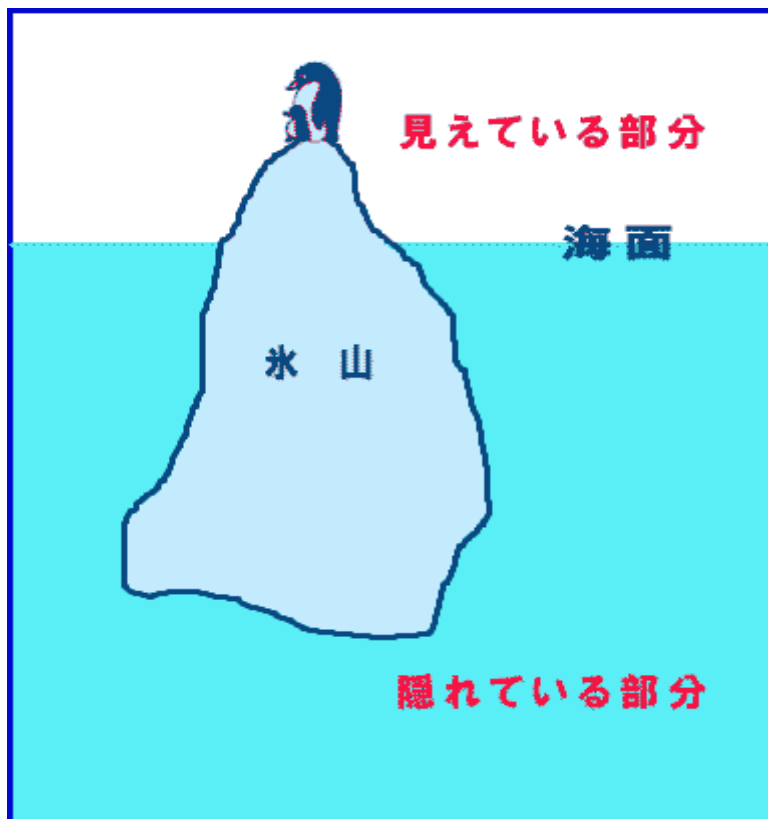
**習い始めてから6年間、
「わたし」はずっとそうやって過ごしてきた。**

- **ほかの学生より楽をして、ほかの学生より
よい成績を取りたい。
(→ 授業をサボって単位を取りたい)**
- **苦労なしで英語を話せるようになりたい。**
- **一月で偏差値を10点上げたい。
(→ TOEIC スコアを 200 点上げたい)**

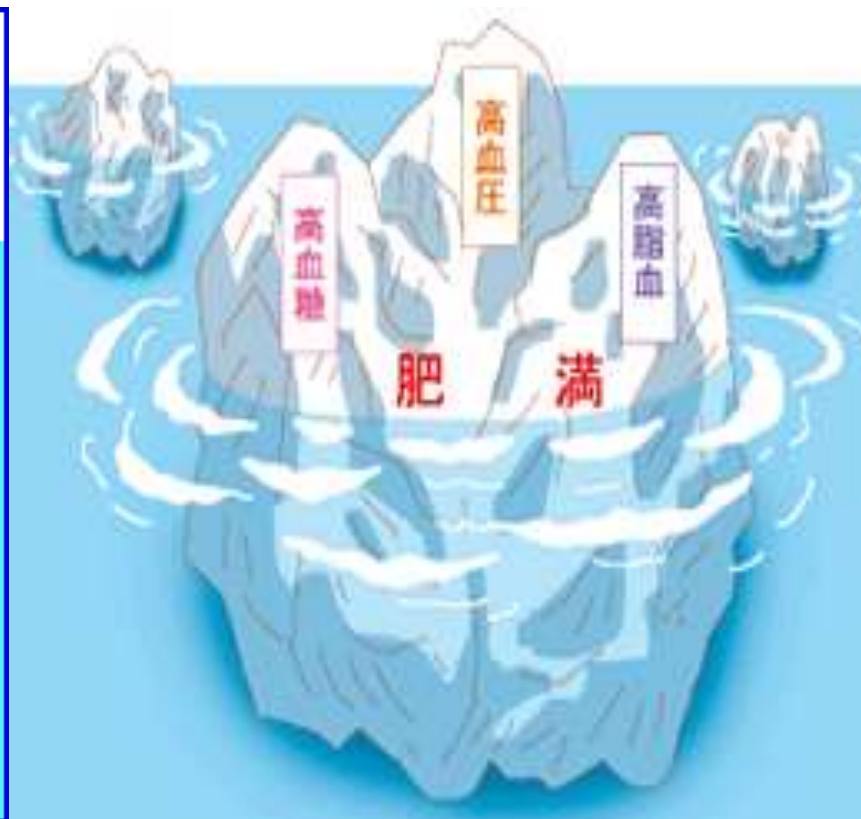
「『究極の』学習法がどこかにある」

- 誰かが教えてくれる
 - 学校は教えてくれない
 - 先生は教えてくれない
 - こんな授業に出ても身につかない
- いい予備校に行って大学に入った
 - 自分は何もしなくていい
 - 魔法のように「英語ができる」ようになる
 - 何も考えなくても英語が使えるようになる

コミュニケーションの前提=氷山のn角



1



2

1. <http://www.michikan.co.jp/kanteitte04.html>
2. <http://www.city.musashino.lg.jp/section/06050hokensuisin/k-passport/knowledge/metabolic.html>

2008年度法学部英語担当授業

- **1年前期**
 - 英語Bridge(自動登録)
 - extensive reading(宿題)の記録 Excel
 - 応答練習・
 - 作文(Word)・相互チェック・自己修正
 - cnn.com/video + PowerPoint
 - e-learning: Dow Jones Business English
- **1年後期**
 - 英語Gate(自動登録)
 - extensive reading(宿題)の記録 Excel
 - 応答練習・
 - 作文(Word)・相互チェック・自己修正
 - cnn.com/video + PowerPoint
 - e-learning: ATR-CALL

2008年度法学部英語担当授業

- **2年英語Theme（選択必修）**
 - 応答練習とグループでのミニ・プレゼンテーション
 - 発表テーマの提案とグループ分け
 - グループでの発表と相互評価
 - 発表内容の文章化と相互チェック
- **3年英語Advanced（選択）**
 - 応答練習とグループでのミニ・プレゼンテーション
 - 発表テーマの提案とグループ分け
 - グループでの発表と相互評価
 - 発表内容の文章化と相互チェック

学生への品質保証(期待した効果が得られなかった場合は同等品とのお取替えをいたします)

- 30分で400語の文章を英語で作成できるようになる。
- 一週間に一冊(簡単な)英語の本を読めるようになる。
- 英語の質問に英語で答えられるようになる。
- 英語でプレゼンができるようになる。
- 他人のプレゼンの途中で質問ができるようになる。
- ひとの顔を見て話ができるようになる。
- 友達がたくさんできる。
- パソコンが使えるようになる。

学生の作文についての所見

- 長さ(30分で書ける単語数)
 - 4月は1行から2行程度
 - 7月は200語から300語程度
 - 12月は300語から400語程度
- 構成
 - 複数パラグラフ
 - つなぎの表現 first / second / third
 - 文章の構成 introduction / conclusion
- 文法・語彙の改善
 - 話し言葉と書き言葉の区別はついていない
 - 具体的な調査は今後の課題

2008年度1年秋学期奇数回週の授業内容

- 宿題の提出・読書記録・作文記録
- 応答練習(30分弱)
- 小グループでのプレゼンテーション
- 文章作成
- 宿題
 - 借りた本を読むこと
 - 文章を完成させてプリントアウト6部とファイルを持参
 - Dow Jones Business English / ATR-CALL
 - Wall Street Journal を一部持って帰ること

2008年度1年秋学期奇数回週の授業内容

- 宿題の提出・読書記録・作文記録
- 応答練習(30分弱)
- 文章相互チェック
- cnn.com/video の視聴
- 小グループでのプレゼンテーション
- 宿題
 - 借りた本を読むこと
 - 文章を修正してプリントアウト1部とファイルを持参
 - Dow Jones Business English / ATR-CALL
 - Wall Street Journal を一部持って帰ること

カードを使用した応答練習

- エーワンのマルチカードに印刷
www.a-one.co.jp/catalogue/files/51003.html
- 3人一組：質問者・回答者・タイムキーパー
- 質問終了後8秒で Start!
- それから30秒後にStop!
- 回答後に相互評価シート
 - 問題番号と評点を記入
 - パートナーが採点して署名

カードを利用した応答練習の利点

- 質疑応答のウォームアップ
 - 質問を思いつかなくて済む
 - 質問の具体的英語表現で悩まなくて済む
 - 回答が時間を区切られて強制される
- 作文と連携可能
 - 100語ないし400語程度の作文を宿題に
 - TOEFL® CBT の問題も利用可能
- Part E は自動採点の対象外

この授業で受講生に何を提供したか？

- (日本語でも答えられないような)質問カード
 - 応答練習の話題
 - 小グループでのプレゼンテーションの話題
 - 作文の話題
- (毎回組み合わせが変わる)少人数のグループ
 - 質問の読み手・質問の聞き手・応答の聞き手
 - 小グループでのプレゼンテーションの聞き手
 - 自分が書いた文章の読者・他の受講生の文章
- (潤沢に利用できる)自習用教材
 - extensive reading materials
 - ATR-CALL

事後の学生の自己認識・相互認識

- コミュニケーション活動における
 - 聞き手・読み手の重要性
- 本当のコミュニケーション活動の重要性
 - 回答者はカードを見ることができない。
 - 質問者・タイムキーパーは回答を予想できない。
- 学生の自律的相互学習
 - 相互の回答・作文・発表から学ぶ。
 - 相互の質問から学ぶ。

教室における学習資源としての学生

- **学習の動機付け**
 - 聞いてわかるように質問を読み上げる
 - おもしろい回答をする
 - 意味のある文章を書く
 - 情報のある発表をその場で行う
- **相互扶助**
 - コンピュータの使用
 - 英語の理解と表現
- **相互学習**
 - 回答・作文・発表

1989年: 協調的共同行為としての英作文

- **英作文のための教育学習環境**

- 自分が文章作成を行う環境

- 電子的入力・編集校正・出力 mifex / emacs / LaTeX
 - 協調的共同行為とコンピュータ支援 mh / mailing list / ftp
 - 研究資源の電子化・ネットワーク化 anonymous ftp

- 学生が文章作成を行う環境

- 電子的入力・編集校正・出力
 - 協調的共同行為とコンピュータ支援
 - 学習資源の電子化・ネットワーク化

- **1989年の現実**

- PC9801 コンパチ (DOS/V 以前)

- 一太郎

- Junet 黎明期 / BITNET の圧倒的優位

- 計算機使用料(接続時間課金)の壁

- LL教室とコンピュータ教室

- 癒し系の英作文

その後の発見・当時欠けていた視点

- **外国語学習の統合性**
 - 知識の獲得と4技能の訓練だけでは足りない
 - TOEFL iBT
- **作文の前のウォームアップの必要性**
 - 学生はすぐには文章が書けない
 - 自分は発表を10回ぐらいしてから文章化
- **対面コミュニケーションの重要性**
 - 北米的文化におけるリアルタイム応答の意義
 - 学生のコミュニケーション能力欠如
- **学習資源としての学生**
 - 自律的相互学習・相互評価を通じた学習
 - ネットワーク時代におけるcollocated learning の意義

データ収集(教員としての主観的判断をデータに基づいて客観的に裏付けるために)

- 対象: 大学生英語学習者(日本人に限定しない)
- 項目: 学習履歴(アンケート)・学習到達度(外部試験スコア)・比較的に自発的で即時的な発話
- 場: 研究代表者の法学部における授業
- 発話データ: 応答練習の応答・小グループにおけるプレゼンテーション・グループ発表
- 収集方法: 音声デジタル録音機による録音・ハードディスクビデオカメラによる音声画像収録

音声収録機材の主な仕様

(2004年度早稲田大学特定課題研究助成による購入物件)

- **アレシス製ハードディスクレコーダ**
 - 12トラック同時録音(88.2/96kHz)
 - 記録メディア: 標準IDEハードディスク(5400rpm以上)、ホットスワップ
 - 10GB録音時間: 12トラック(96kHz)にて45分
 - 量子化ビット数: 24ビットリニアPCMエンコーディング
 - 音響特性: 周波数特性: 22Hz~44kHz $\pm$ 0.5dB/歪率: 0.003%以下
S/N比: 112dB以下、A-weighted/ダイナミックレンジ: 144dB(digital in digital out)、103dB(analog in analog out A-weighted)
- **アレシス製マイク8chフェーダ(アンプ)**
 - 周波数特性: 10Hz~65kHz、+0/-1dB(ノミナルレベル時の入出力)
- **ソニー製マイクロホンECM-360**
 - 周波数特性: 50Hz~16kHz
- **マイク・ケーブル 10m ならびに 15m**





その他の機材（2006年度科研費による購入物件）

- データ処理用ノート型PC
 - lenovo ThinkPad X60 × 3 / lenovo ThinkPad X60s × 2
- 音声画像収録機材
 - SONY ハードディスク ハンディカム DCR-SR100 × 13
 - SONY ブルートゥースワイヤレスマイク HCM-1 × 13
- データ蓄積
 - BUFFALO 外付けハードディスク HD-W1.0TIU2/R1 × 3
- メディア変換
 - Victor 業務用mini-DV・HDD・DVDレコーダ SR-DVM70
- ラベル／ディスク・ライタ
 - CASIO KLD-300 NameLand DiscBiz

ハードディスクな日々

- 1987年頃 PC-9801用 **10MB / 200,000 円程**
 - 結局使い物にならず(むしろ RAM disk)
- 2005年1月 Emprex **4.0 GB / \$179.99**
 - 2年たったら壊れていた
- 2006年11月USB 2.0 **120 GB / 20,000 円弱**
 - 2m 落下耐性ポータブル
- 2006年11月USB 2.0 **1 TB / 53,000 円以下**
 - 外付け / 500GB × 2 / Raid 設定せず

テラバイトな日々

- Alesis ハードディスク・レコーダ
 - 25分弱 12 trackで 5 GB
 - 週 6 クラスで 30 GB
 - 学期に12週で **360 GB**
- SONYハードディスク Handycam DCR-SR100
 - 30 GB ハードディスク内蔵
 - 毎週実働平均5 GB × 12 台 = 60 GB
 - 学期に12週で **720 GB**

不確定性原理の教育的活用

- **マイクによる音声収録の教育的効果**
 - 客観的検証不能な命題
 - カラオケ世代
- **ビデオカメラ撮影の教育的効果**
 - 客観的検証不能な命題
 - ハンディカム世代
 - 1985 SONY ハンディカム 1号機
 - 1988 パスポートサイズ (780 g) ハンディカム
- **足場かけとしての収録機器**

ビデオデータ収録の意味

- 当初は別目的
 - 学習者の視線記録を目指していた
- 安価なCCDカメラが市場から払底
 - ワイヤレスマイクによる収録に変更
- 音声のみだと話者の識別が困難
 - ビデオデータであれば比較的容易

データの一覧性・検索性

- ビデオデータの一覧性
 - 早送りでも十分把握できる。
 - サムネイルが自動生成されればさらによい。
 - 画像検索もまもなく実用化？
- 音声検索はまだまだ？
 - 単語スポッティング
 - 自動音声認識のXML出力

応答練習の概略

- 教員があらかじめ質問を用意する。
 - ひとつのテーマに関連する10の質問
 - エーワンのマルチカードに印刷して配布
 - ひとつのカードにひとつの質問
- 3人の学生が1グループを構成する。
 - 質問者:カードの英文を読み上げる。
 - 回答者:質問に回答する。
 - タイムキーパー:撮影担当
- ひとつの質問が終わると
 - 相互評価用紙に記入
 - 役割を交代
- 応答練習が終わると
 - そのテーマについて300語から400語の文章作成
 - 宿題として完成・次週に相互チェック

応答練習の3原則(2004年度以降)

- 三角形にたつ
- 相手の顔を見る
- にこやかに

少人数プレゼンテーション

- 作業

- 応答練習のあとスライド作成
- 3/4人で相互に発表
- このあと作文

- 狙い

- インフォーマルな発表
- 質問
- 作文のウォームアップ

作文の相互チェック

- 作業
 - 形式のチェック
 - 内容のチェック
 - 励ましのコメント
 - 採点・署名・日付・返却
- 狙い
 - 作文の形式を学ぶ
 - 作文の構成を学ぶ

CNN/video の視聴

- 作業
 - 各自が勝手にビデオクリップを見る
 - パワーポイントでスライドを作成
 - $\frac{3}{4}$ 人で互いに紹介
 - インフォーマルな発表
 - 質問
- 狙い
 - リスニング
 - 大意の把握
 - アウトライン

The Importance of Rotating Seating Assignments

- **学生の自律的学習を促す教室活動**
 - ペア・3人一組・6人1グループ・自主的グループ構成
- **コミュニティ(形成)支援の必要性**
 - 初対面のクラスメートと話ができない
 - 相手の顔を見て話をすることができない
 - グループ活動が成立しない
- **入学時の英語力の多様化・二極化**
 - 固定したグループ活動では動機付けが低下
 - 自分たちでグループを構成することが困難
- **座席配置の有効性**
 - You are where you are.

座席配置

- **自由着席**
 - 仲間が集まり騒がしい・教室後方に固まる
 - 提出物の回収・集計・返却にかなりの手間がかかる
 - 出欠遅刻早退の確認に時間がかかる
 - 学生の顔と名前を一致させにくい
- **出席番号に基づく固定座席**
 - 学生の顔と名前を一致させやすい
 - 提出物の回収・集計・返却を省力化できる
 - 出欠遅刻早退の確認が容易
- **出席番号に基づくローテーション着席**
 - 毎回のグループ構成を変えることができる
 - 学生の顔と名前を一致させにくい
 - 提出物の回収・集計・返却に若干の手間がかかる

座席配置表の作り方:手作業で作る理由

- クラスの人数は事務的に決まる
- 学習活動は 1/2/3/6 をベースとする
- コンピュータ教室の座席配列は 6×6
- 途中で脱落する学生がいる

座席配置表(mod 1)

projector/whiteboard

**	01	07	13	19	25	**	**
**	02	08	14	20	26	**	**
**	03	09	15	21	31	**	**
**	04	10	16	22	32	**	**
**	05	11	17	23	33	**	**
**	06	12	18	24	30	**	**
**	**	**	**	**	**	**	**
**	**	**	**	**	**	**	**
	**	**	**	**			
	**	**	**	**			

座席配置表(mod 2)

projector/whiteboard

**	02	14	26	07	19	**	**
**	04	16	32	09	21	**	**
**	06	18	30	11	23	**	**
**	08	20	01	13	25	**	**
**	10	22	03	15	31	**	**
**	12	24	05	17	33	**	**
**	**	**	**	**	**	**	**
**	**	**	**	**	**	**	**
	**	**	**	**			
	**	**	**	**			

座席配置表 (mod 3)

projector/whiteboard

**	03	21	07	25	14	**	**
**	06	24	10	32	17	**	**
**	09	31	13	02	20	**	**
**	12	30	16	05	23	**	**
**	15	01	19	08	26	**	**
**	18	04	22	11	33	**	**
**	**	**	**	**	**	**	**
**	**	**	**	**	**	**	**
	**	**	**	**			
	**	**	**	**			